

【参考】 事業提案書の記載事項について

| | | |
|----------------------------|--|---|
| (1) プロダクトの概要 | ①名称 | 商品名、商標を得ている場合はその旨 |
| | ②対象者（主たるターゲット） | プロダクトが想定しているターゲットのこと。 個人の場合は、属性や特定のニーズを持つグループなど （例）30代男性 ターゲットが法人・団体の場合は、想定している業界名など （例）協会健保、夜勤のある職種、教育業界 実証実験の対象と同じとは限らない点に注意 |
| | ③プロダクトが持つ特徴 | プロダクトについての簡単な説明 そのプロダクトが持っている健康維持・増進や介護予防に貢献するための特徴 （例）自然に／当たり前のように／楽しみながら／負担なく取り組めるような特徴 |
| | ④市民の健康維持・増進や介護予防における意義、有効性 | 実証実験を計画するに至った経緯と、実証実験で解決しようとする問題点 実証実験により、何をどう明らかにしたいのか（目的） |
| (2) 実証実験の方法 | ①実施の時期及びその期間 | 効果測定を行う時期 実証結果が明確になるだけの十分な実証実験の期間提案 |
| | ②実施地域又は場所 | 希望する具体的な地域や場所があればその条件などを明記 （例）高齢化率が〇%以上の小学校区 |
| | ③参加者数 | 実証実験を行うグループ毎の設定数など具体的に記載 参加者数の設定根拠がある場合は記載 |
| | ④参加者の選定条件 | 具体的、定量的に記載 （例）年齢／性別／職業／既往歴等 |
| | ⑤参加者の除外条件 | 理由を具体的に記載 （例）治療、投薬／重篤な疾患や罹患／手術暦等の除外の基準 |
| | ⑥実証実験で参加者に求める行動や内容 | 開始までに準備すること。実証実験実施中には、（あれば）休止期間、後観察期間、実施方法などを具体的に記載 （例）会場で実施する説明会への参加／自宅での運動プログラムの実施と実施直後の血圧の測定 |
| 確保 (3) 参加者の安全の | ①参加者の除外条件 | 理由を具体的に記載 （例）治療、投薬／重篤な疾患や罹患／手術暦等の除外の基準 |
| | ②実証実験で参加者に求める行動や内容 | 開始までに準備すること。実証実験実施中には、（あれば）休止期間、後観察期間、実施方法などを具体的に記載 （例）会場で実施する説明会への参加／自宅での運動プログラムの実施と実施直後の血圧の測定 |
| (4) 実証実験において想定される事故とその補償方法 | 精神、身体的負担の可能性がある場合は記載 また、事故が発生した場合に備えた保険と補償内容を記載 | |

| | |
|--------------------|--|
| (5) 実証実験による成果の活用方法 | 実証実験による成果の活用方法として、商品、サービスの展開、事業化の計画、展開する市場の予定、経済波及効果の想定などを記載 |
| (6) 実証実験の実施体制 | 事業者、倫理審査、研究機関、実証実験のフィールド等との連携を含んだ実施体制を記載 |
| (7) 個人情報の取扱い | 参加者の同意書を取り扱う場合は、機密保持について十分配慮し、データの授受の方法、開示請求への対応、データの保管方法などを記載 参加者の個人情報を委託先など第三者に提供する場合は、匿名化、保管、廃棄の方法、提示予定先などを記載 個人情報保護規程等を添付することを推奨 |
| (8) スケジュール | 実証実験の準備、実施、分析、報告までの想定されるスケジュール 無理のない設定。延長の可能性がある場合を明記 実証のマイルストーンを設定する場合は記載 |
| (9) 参加者への配慮 | 参加者に生じる利益と不利益、謝礼の有無、経済的負担の有無、健康被害の可能性がある場合は対応の方法 参加の任意性と同意撤回の自由の保障とその方法 実証実験に参加した結果の開示範囲の明示 |

以上